【授業科目】小児看護援助論Ⅰ（健康を支える）　Child Nursing Ⅰ

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
別所 史子、増田 由美、馬場 佳理	２年次後　期	必　修	2	３０	講　義	あり	巻末記載	可

授業概要（内容と進め方）及び課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／子どもと家族を取り巻く社会環境や発達に関連した健康問題が子どもと家族に及ぼす影響、及び小児看護実践の基本となる子どもの権利擁護やアセスメントについて学修し、さまざまな健康レベルにある子どもの健やかな成長発達を支援するために必要な知識と技術を修得する。 講義形式で、教科書を使用しながら適宜資料を配布して行う。 課題に対するフィードバック方法／提出された事後課題に対して、全体の傾向や疑問点についてコメントを述べる。
実務経験に関する授業内容	看護師の臨床経験をもつ教員が、看護師として必要な小児の看護援助に関する知識・技術・態度について、専門的な知見にもとづく資料・視聴覚教材を交えながら指導していく科目である。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「専門的知識・技術に基づき、地域に暮らすあらゆる健康レベルの人々にそれぞれ必要とされる看護を実践することができる」の達成に寄与している。
到達目標（履修者が到達すべき目標）	①子どもの人権を尊重した看護援助の必要性を述べることができる。 ②子どもと家族を取り巻く社会環境や発達に関連した健康問題と支援のあり方を述べることができる。 ③子どもの発達段階による生命・死、病気のとらえ方の特徴と治療過程への支援のあり方を述べることができる。 ④子どもに安全・安楽なケアを提供するための援助技術と根拠を述べることができる。
時間外学習に必要な内容・時間	事前学習： ・すべての回において指定の教科書の単元に該当する箇所を事前に読み、疑問点を整理しておく。（30分） ・本科目の基盤となる小児看護学概論、治療学Ⅴの講義内容を復習しておく。（60分） ・第1回　子どもの権利に関する記事、ニュースを読み、子どもにとっての最善が何かを考察し、まとめる。 ・第2回　自身の成長記録をもとに、子どもの成長過程における保健医療福祉施策とその法的根拠を調べる。 ・第12回 小児看護技術（調乳・授乳、身体計測技術）に関する事前課題を課す。 ・第15回 事例を読み、健康問題をもつ子どもと家族の看護に必要となる知識・技術に関連した事前学習を課す。 事後学習： ・教科書や配布資料、授業中に紹介する文献、書籍などを参考に授業内容を振り返り、要点を整理する。調べたうえで、不明な点や疑問点があれば、教員に質問する。理解できないまま放置しない。（60分） ・第1回　子どもの権利条約、各種指針を読み、小児看護・医療における子どもの権利擁護について自身の考えをまとめる。 ・第6回　認知発達理論を参考に、自身の小児期の体験と病気や生命・死のとらえ方の特徴を整理し、まとめる。 ※その他に、講義内容に関連した課題を課すことがある。
	※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／１回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画	第1回　ガイダンス 小児看護・医療における倫理、子どもの権利擁護、看護における重要な概念 （インフォームド・コンセント/インフォームド・アセント、プレパレーション、ディストラクション、Family centered Careなど） 第2回　小児看護と法律・施策 （児童福祉・母子保健施策、予防接種、学校保健施策、難病・障害児保健福祉など） 第3回　子ども虐待と看護 第4回　子どもの事故と看護（事故予防と救命処置） 第5回　小児感染症と看護 第6回　子どもの病気のとらえ方、生命・死のとらえ方、治療過程を支える看護 第7回　子どもの検査・処置、検査・処置を受ける子どもの看護 第8～11回　子どものアセスメントと看護 （バイタルサイン測定、フィジカルアセスメント、症状・生体機能のアセスメント、緩和ケアなど） 第12回　病気・障害のある子どもの看護（地域・在宅看護） 第13回　病気・障害のある子どもの看護（継続看護） 第14回　小児看護技術演習（調乳・授乳、身体計測） 第15回　健康問題をもつ子どもと家族への看護に必要な知識と技術のまとめ（グループワーク）	第 1～2 回 別所 増田 別所 馬場 第 6～11 回 別所 第 12～13 回 増田 第 14～15 回 別所、増田、馬場
評価方法 評価基準	筆記試験 85%、講義時の課題 15%で評価する。

教科書	奈良間美保他著『系統看護学講座　小児看護学概論・小児臨床看護総論　小児看護学①』　医学書院 奈良間美保他著『系統看護学講座　小児臨床看護各論』医学書院 浅野みどり編『根拠と事故防止からみた小児看護技術第 3 版』医学書院 （2 年次前学期「小児看護学概論」で購入したもの、及び 2 年次後学期「治療学Ⅴ」で購入したものを使用）	参考書等	中野綾美他著『ナーシング・グラフィカ　小児看護学①　小児の発達と看護』メディカ出版 厚生労働統計協会『国民衛生の動向』 医学映像教育センターDVD『小児看護技術 Vol.1-3』『子どもの病気と看護技術 Vol.1-3』『小児への経口与薬』『小児在宅ケア』 その他、講義中に提示する。
学生への助言等	これまでに学習してきた内容をもとに、子どもと家族を取り巻く社会や健康に関心をもって主体的に授業に臨み、理解を深めるために積極的に質問をしたり、調べたりしてください。 厚生労働省のホームページでは子どもの健康や福祉に関わる最新の情報が update されますので、授業中に適宜紹介します。必ず確認するようにしてください。 授業の理解度によっては、講義の内容や順番が変更になる場合があります。		